

# 第1回香取市総合計画審議会及び 第1回香取市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事概要

**開催日時：** 令和4年5月11日(水) 午後1時30分から午後3時00分

**開催場所：** 香取市役所 全員協議会室

**出席者：** 24人

## <委員>

武田好久委員、石井良典委員、木内正委員、大川裕志委員、竹蓋伸六委員、熱田昇委員、堂下浩委員、関謙次郎委員、椎名宥心委員、實川美香委員、鈴木恵子委員、林英恵委員、内堀寿美男委員(代理:土屋英樹氏)、鶴澤広司委員、田山歩委員、加藤一徳委員、橋本富清委員、山本一郎委員、上村進委員、山之内俊雄委員、香取忠良委員、嶋田隆委員、遠山和廣委員、飯名眞巳委員

## <事務局>

経営企画部 宮崎部長

企画政策課 小林課長 堀越班長 浮嶋主査 平山主査 金田主任主事

**報 告：** (1)第2次香取市総合計画後期基本計画及び第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について

(2)香取市人口分析暫定版について

(3)社会的潮流と動向について

**議 事：** ・前期基本計画の検証結果

**配布資料：** ・香取市総合計画審議会委員名簿

・香取市総合計画審議会条例

・第2次香取市総合計画

・香取市まち・ひと・しごと創生推進会議委員名簿

・香取市まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱

・第2期香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略

・趣旨説明資料 香取市総合計画、香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

・資料1:第2次香取市総合計画後期基本計画及び第3期香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針

・資料1(改定案):第2次香取市総合計画後期基本計画及び第3期香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針(改定案)

・資料2:香取市人口分析暫定版

・資料3:社会的潮流と動向

・資料4:前期基本計画の検証結果

・参考1-1:成果指標の達成状況(総合計画)

・参考1-2:成果指標の達成状況(総合戦略)

・参考1-3:前期基本計画施策検証個票

・参考1-4:総合計画と総合戦略の対応表

・参考2:香取市と隣接6団体との比較分析

## 議事内容：

### 1 開会 企画政策課政策班長 堀越

### 2 趣旨説明

香取市総合計画審議会及び香取市まち・ひと・しごと創生推進会議について説明。

第2次香取市総合計画前期基本計画と第2期香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略が令和4年度で計画期間が終了し、第2期総合戦略が前期基本計画の重点プロジェクトとなっており、後期基本計画においてもその役割は変わらず、当該戦略が基本計画の重要施策となることから、後期基本計画と第3期総合戦略を一体的に策定する。そのため、香取市総合計画審議会および香取市まち・ひと・しごと創生推進会議は原則、同時開催とする旨を説明。

### 3 委嘱状交付

香取市総合計画審議会委員に委嘱状を交付。

### 4 市長挨拶 香取市長 伊藤友則

### 5 委員紹介

出席委員に自己紹介をいただいた。

また、委員の自己紹介後、事務局職員の紹介を行った。

### 6 会長・副会長選出

会長が選出されるまでの間、企画政策課長小林が座長として進行。

選出について事務局に一任された。

事務局より

会長に、東京情報大学の堂下委員を推薦し、異議なく承認・決定。

副会長に、香取市自治会連合会の関委員を推薦し、異議なく承認・決定。

堂下会長、関副会長就任の挨拶。

(以降、堂下会長が議長となり進行)

### 7 報告

#### **報告（1）第2次香取市総合計画後期基本計画及び第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について**

資料1に基づき、策定方針について、策定の時期、計画策定にあたっての基本的な考え方、策定スケジュールについて事務局から説明。

#### **【事務局(企画政策課) 説明要旨】**

基本計画、総合戦略の策定期間については令和5年3月を予定している。

計画の策定にあたっては、「社会的潮流と動向を反映した計画」、「様々な視点からの市民の声の反映」、「SDGsへの配慮」、「2040年問題を見据えた対策」、「戦略的かつ実現可能な計画」の5点を留意し計画の策定を進める。

策定スケジュールについて、令和5年1月に議会に答申し、2月にパブリックコメントを行う予定である。今後、7月、10月、12月に今回を含めて計4回の審議会を行う予定である。

また、4月に香取市の一部地域が過疎地域指定を受けたことから、過疎地域指定に関する記載を追加して、改訂を予定している。

## **報告（2）香取市人口分析暫定版について**

資料2に基づき、香取市全体・地域ごとの人口動向、人口推計・国勢調査の結果、将来推計人口について事務局から説明。

### **【事務局(企画政策課) 説明要旨】**

2013年から2021年までの10年間に於いて、香取市全体で1万人人口が減少している。2018年に公表された人口推計と2020年の国勢調査の差について、0～4歳の年少人口と20歳から34歳の女性の人口比率が推計より下回っており、今後少子高齢化がさらに加速すると想定される。2018年に公表された人口推計に比べ2020年の国勢調査において、人口総数は上振れしており、人口減少の速度は緩やかになっている。

## **報告（3）社会的潮流と動向について**

資料3に基づき、9つの社会的潮流について事務局から説明。

### **【事務局(企画政策課) 説明要旨】**

社会的潮流と動向について、「少子高齢化と人口減少のさらなる進行」、「経済の低迷と雇用の悪化」、「DXの推進とSociety5.0の到来」、「多文化共生の実現」、「安全で持続可能な都市基盤の形成」、「安心して生活できる環境の実現」、「持続可能な行財政基盤の確立と行財政改革の推進」、「SDGsの推進」、「カーボンニュートラルの実現」の9点が挙げられる。

⇒ 報告（1）（2）（3）について、委員から質問なし。

## **8 議事**

### **前期基本計画の検証結果**

資料4、参考1-1、1-2、1-3、1-4に基づき、事務局から説明。

### **【事務局(企画政策課) 説明要旨】**

「人・農地プラン」について、令和4年度に70件の作成を目指していたが、67件の作成が完了している。課題として、引き続き次世代の担い手の確保が挙げられている。

「空き店舗の新規開店数」について、令和3年度に16件を目標値としていたが、現時点で19件となっている。課題として、事業主の高齢化や後継者不足により廃業となるケースが増えており、既存商店の価値を引き継ぎ、空き店舗化を防ぐ事業継承をさらに進める必要がある。

「施設の適切な維持管理」について、老朽化した施設の修繕や公園照明のLED化、防犯カメラの設置、健康遊具など公営施設の充実化を図っている。今後老朽化する施設などが増えるため、既存施設の整備などの長期計画が必要となっている。

「橋ふれあい公園の整備」について、他世代間の交流の場、市民の健康増進の場、来訪者を誘致する場として拡張を実施している。今後は公園の有効活用の方法を検討する必要がある。

「自主防災組織の組織率」について、60%の目標値に対し、129の自治会において自主防災組織が設置され、45%の実績となっている。組織率向上のため、自治会に設立を依頼することや地域の防災リーダーとなる人材の養成の支援を実施している。

「子育て世帯への経済的支援の継続」について、現行制度を維持するため、自己負担金の見直しを実施したほか、新型コロナウイルス感染症対策として、市独自の応援給付金を支給した。課題として、出生数の減少に対し、産後健診の補助等、新たな支援の検討が必要である。

「地域の子育てに関する支援・相談体制の継続」について、子育て世代包括支援センターを設置し、妊娠期から子育て期に渡る、切れ目のない総合相談窓口業務を連携しながら行っている。各種相談から、特定妊婦や保護が必要な児童の支援が増加している。課題としては、増加する相談件数に対応するため、庁外機関との連携を強化し、継続的に支援できる体制を構築する必要がある。

「産婦人科の充実」について、産婦人科施設の誘致が決定したことにより、香取市誕生以来の課題であった市内での分娩が実現する見通しである。開院後、安定経営のための後方支援や、誘致し

た産婦人科と連携を図りながら妊娠、出産、子育てにおける新たな支援施策を検討する必要がある。  
「地域医療提供体制の充実」について、香取おみがわ医療センターの地方独立行政法人への移行が完了した。今後は同センターが提供する医療の質の向上を図るため、常勤医師の増員が必要である。

「学校施設の適正配置」について、学校再編について保護者・地域・学校関係者で協議し、市民協働で学校統合を進めており、小規模校の統合により、教育環境の格差是正を図ることができている。

「学校施設の長寿命化」について、平成30年8月に香取市学校施設長寿命化計画を策定したが、引き続き学校施設の長寿命化を計画的に推進する必要がある。

「公共施設の集約による中心市街地の活性化」について、佐原駅南口の複合公共施設の整備などにより、多様な世代の集客を果たし衰退傾向にある中心市街地の活性化を目指している。課題としては、中心市街地活性化の核となるため、多様な世代の利用を想定し、継続的に施設利用の促進を図られるサービス提供体制の確立が求められている。

「市内公共交通の利便性向上」について、循環バス、乗合タクシーの運行を続けるとともに、路線バスへの運行補助を実施し、交通不便地域の減少に取り組んでいる。課題としては、沿線の少子高齢化と人口減少に加え、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響によりバス便数と利用者数がともに減少している。

「住民自治協議会への継続的な支援」について、23の住民自治協議会に対し補助金を交付し、住民主体の地域色豊かな事業に取り組んでいる。今後は、増大化する地域課題に対し、協議会による自己解決力を高めるため、財政的・人的支援を継続しながら、組織強化・育成に取り組む必要がある。

⇒ 委員から質問なし。

⇒ 原案のとおり承認。

#### 【議長 発言要旨】

今後、市民の意見を反映し、計画案を事務局で作成していくことになる。皆さまから計画案の作成にあたりどのような観点で、どのような内容を盛り込めばいいかといった、ざっくばらんとしたものでも構わないので、要望、アドバイス等あればいただきたい。

#### 【竹蓋委員 発言要旨】

社会福祉協議会としては、コロナ等で収入が減った方、失業された方に対して、その方の生活の再建後に返済をしていただくという前提で、国のコロナ対策資金由来で特例の生活福祉資金等の貸付を行っている。もちろんこの制度は条件等があり審査をしているが、開始後約2年間の累計件数が1,654件であり、金額にすると市民に6億7,605千円の貸し付けていることになり大変に利用が多い状況である。

この制度は複数回利用する機会があるので、利用している方の実数は少なく、香取市の場合1,654件のうち、実世帯数は527(31.8%)であり、その借りた方々はおおよそ3回利用し、貸付残高が多くなっている。特に高齢の方の利用が多く、コロナによる失業後の再就職が難しいという印象である。また、周辺市町村と比べると、香取市が周辺自治体よりも貸付件数が多いという傾向がある。

その後の話になるが、前期基本計画の検証結果、施策名3-8社会保障において、コロナ禍の影響により相談件数が増大しているということだが、「複合的な課題に対応すべく関係機関のネットワークを拡充させ、さらなる連携体制の構築・拡充が必要である」と記載されている。貸付の制度を利用するにあたっては、千葉県社会福祉協議会で集まった情報を基に、サポートセンターと市の社会福祉課で情報を共有し対応するという連携体制はある程度揃っているが、生活再建に至る個別の相談や継続的な支援については、ケースワーカー・ソーシャルワーカー等、マンパワーが必要である。もとの福祉の足腰が強くなければ、相談される方が増大した際に対応できなくなる。

特に生活福祉資金に関して返済開始は令和5年1月であり、コロナが終息しても生活状況が改善されない限りは困難な状況は続く。返済義務に関する条件等、制度は整っているが、その先どうするかフォローが必要である。生活支援というのは切れ目のない形で続けていかなければならず、そのあたりを市の施策において配慮してほしい。

**【議長 発言要旨】**

これから発生すると予測される返済困難者に対して、カウンセリングが重要になってくるということだが、香取市の中だけでは十分ではないと思うので、県を含めて、カウンセリングの充実を図りたい。

**【加藤委員 発言要旨】**

「資料4」16 ページの都市基盤の整備、5-7上水道について「僅かに未達」となっており、目標値が100kmとなっているが1事業体で100kmも残っているというのは危惧すべき状況であり、より高い目標値にするべきである。

**【橋本委員 発言要旨】**

加藤委員が指摘したものと同一になるが、上水道の石綿セメント管の残存延長距離が、全国ワースト1位となっている。なぜこのような結果なのか、なぜこのように遅れているのか。対策を考えることが、策定方針の2040年問題(人口減少と高齢化が進んで、医療や介護をはじめ、道路や水道などの社会インフラ問題が顕在化されると危惧されている)を見据えたインフラの整備・更新、老朽化対策につながっていくと思うので、そちらもコメントいただきたい。

**【事務局(企画政策課) 回答要旨】**

確かに全国ワースト1位であり、現在100km中、毎年4、5km程度の整備しかできていない。石綿管の更新は国の補助金がつく場合も出てきたので、更新を進めていかないといけないが、今は小見川地区と栗源地区をつなげ、最終的には全部を統合するという大事業を行っており、投資しすぎると出資金が増大する。水道会計は独立して水道料金で賄っているが、一般会計からの資本金額が従来5億円だったものが15億円になるという話があり、計画的に進めなければならない。一時は年間8km程度の整備計画だったが、現在は少し下がっている状態である。

指摘を受け止め、整備を今後進めていきたいが、まだまだ投資、資本金のアップをにらみながら計画的に進めていく。

**【議長 発言要旨】**

国の補助金が出るようになっているのであれば、それを活用してワースト1位の汚名返上を進めてほしい。

**【林委員 発言要旨】**

健康分野について3つ言及したい点がある。

1つ目は、結果を出すということに香取市がいい意味で非常にこだわっており、その姿勢をずっと貫いてほしいということである。特に健康分野は科学であるので、数値化し、その達成具合を見ること、測ることは大事である。ゴールは国の示す指標と合致しており良いと思っているが、「資料4」9ページの3-8の施策について、課題と現状の方針が、結果を出すためにミスマッチになってしまっていると感じた。例えば、がん検診の受診率の向上や、身体活動の促進は、より良い結果を出す(受診率をあげる)方法や手段に対して科学的エビデンスが出ており、受診勧奨の適した方法や手段も明らかになっている。健康づくりの分野のエビデンスを活用されると良いと思うし、必要であれば私自身が健康づくりの課などで説明させていただく所存である。

2つ目は、身体活動の促進や生活習慣予防のための戦略がミスマッチになっていると感じることで

ある。どうしたら市民が健康になるかということを考える時、環境要因は非常に大きい。健康教室や啓発など個人の要因に基づく対策も重要だが、最も重要なのは、例えば市民の歩数を増やすのであれば、狭くて危ない道路や歩道を整備する等、環境を整備することである。環境の整備をアピールして他市からの転入を増やしている市町村もある。香取市は山も川もあり、歩いていて楽しい町だと思うので香取市の魅力を活かしつつ、エビデンスやデータに基づいて戦略を立てていくべきであり、私はその点について手助けができると思っている。

3つ目は、テーマの分断ということである。例えば、貧困世帯の方たちは往々にして健康状態もよくないことが多い。健康格差が広がっている地域では人々の全体の健康レベルが下がり、死亡率に影響を与えるなどのことが科学的に示されている。前期基本計画の検証結果で言及されていないが、香取市においても健康格差という問題が起きているのではないか。テーマで分断してしまうとどこに属するか不明な問題に、一番大事な問題が隠されてしまっていると考え。したがって、分断化しすぎずに総合的に見る視点も重要である。課や施策で分かれてしまっている問題を横断的に見えるように次の計画は作っていく必要がある。

#### 【議長 発言要旨】

2015年の夏休みに高校生を15～20名ほど推進会議に招いて意見交換をし、高校生から出産や育児の環境整備が十分でないことへの不安や、公共交通機関の不便さへの改善要望などの率直な意見をいただいた。高校生や市民の皆さまから切実な意見を聞き、要望を聴取したうえで、この7年間、推進会議と審議会を通して、課題解決に向けて、計画を策定し、少しずつ成果を挙げている状況だと思っている。

今年度は新型コロナを鑑み、高校生をこの場に招いて率直な意見を聞くことはできないが、今年5月から7月にかけて高校生向けのアンケートや市民ワークショップが開催され、市民の声を聴取する機会があるので、次回の委員会までに市民の声が凝縮された一連の調査結果が報告書という形で、委員の皆さまに事務局から郵送されると思う。従って、次回の委員会の前に、各報告書を市民の心の叫びという思いでコメントしていただければと思う。

## 9 その他

### ・香取市と隣接6団体との比較分析について

#### 【事務局(企画政策課) 説明要旨】

香取市と隣接6団体の指標上の比較分析について参考資料を配付している。次回の審議会、推進会議への参考資料として配布しているのでご確認いただきたい。

## 10 閉会 企画政策課政策班長 堀越

以上